

3. 考 察

日本+土に於ける浅瀬、蛤の多産地は東京湾、有明海、瀬戸内海、三河湾等と謂われ波静穏、潮流良好、淡水注入し、海底平坦で細砂8~6の砂泥(蛤)又は細砂に多少の泥土(蛤)を混入する処で潮汐の干満差が甚しくなく塩分は比重2.0~2.4(蛤)又は1.5~2.3(蛤)位の所である。屋我地南部地先は日本の多産地の条件が合致しているため蛤、蛤(屋我地先)の養殖場として適当であると思われる。然しアジモが生えているため底質硬くその上に於ける葎付では貝の土中潜入に困難すると思われるから、周耕により除藻すれば尚一層の成果を得られると思われる。済井出地先は季節風の影響を受ける事が大きく且泥土少く、内海に比して不適と思われる。羽地+先は各川による浮泥被害や降雨期や暴風時の鹹度激変頻度が多いと思われる。此のため適当とは言えない。

(7) 海苔調査

1. 調査地及期日

栗園村に於ける海苔調査、57年4月21日~23日、3日間

2. 調査経過

北岸の海苔は老衰期に至り外縁は千切れ落ち根の一部を洗す程度に褐色して天緑色を呈していた。着生場所は図示の通り樹状になった処で当時(日3月22日17時干潮時)海面から5尺位上位に露出し飛沫もかゝらず乾燥状態の儘岩面に張りついていて、長向^日。着生場所の状況から推して北風の時飛沫のかかる処にあり、其の品種は久米島、伊江島等の岸に至する岩のりであろうと思われる。(鹿児島大学水産学部教授理学博士田中剛兵衛定によりツクシアマリと判明)。北西岸の状況も同品種であつたが双方着生面積が少く、北岸が40坪位北西岸が20坪位と推定された。船付場附近はヒトエグサが着生し未だ老期の様で黄緑色を呈して一帯に繁茂していた。東北岸一帯はアヲノリが多く、浜には打寄せられて堆積していた。ヒトエグサは少なかつた。住民によれば船付場附近には少量のバフンケニがあり東北岸にはムラサキウニが多量に棲息する。住民は卵巣充実期に蒸煮で食用に供する由。

(8) 食用蛙及漁業状態の調査

1. 目 的

伊平屋村に於ける日名池、ハザメ用水池の放棄食用蛙の繁殖状況及同村の漁業状態の調査

2. 期 日

1957年5月14日~19日まで6日間

3 田名池について

田名池は伊平屋島の北東部の田名部落南西方にある。北西に後岳、西に浅岳、東部に前岳等に圍繞される盆地間に水田地帯があり、その中央部に位する面積1.5町歩の天然池である。水田との境界は水田堤による低いもので、池周辺は葦、蒲が茂つてその境界は判然としない。用水は北西部の山岳地帯より流入し北東部より余剰水は排出され水産豊富である。水深2~3尺、底質軟泥で池中歩行は困難。養魚、魚類は鯉、鯽、鯿等で最近アラビアも釣れると云う。田名池は常態に於いて降雨毎に栄養分流入し天然餌料の発生を促し、魚の成育には好条件を備えているが雨期、暴風時には水位が4~5尺も高くなり一帯に溢水する為魚の逸脱は免れないと思われる。養魚するには堤防を6~7尺高めにするか、或は金網や竹垣等で圍柵する必要があるが、面積拡大の為多額の資金を要するであろう。

4 食用蛙の繁殖の有無状況

ハザマ用水池は我喜屋部落北西部の山手にある。

5.6年9~10月食用蛙放棄がなされよと云われるが成蛙もオタマジャクシも見当らなかつた。用水池周辺田の所有者によれば鳴き声を聞いた事なく、又春苗準備の糞肥(石灰窒素)後成蛙が畦に出て斃死のもの7匹を見たと言ふ。

5 漁業の状況

◎ 網魚業

1 ナイロン製三重網

我喜屋、前泊、田名の各部落に各一組宛(7統)あつて年中出漁するのは此の網漁業のみで漁獲物はアイゴ、テンダハギ、ヤマメ、イラフジ、エイ、カニ等で本島と同型のものが捕獲され、冬季の魚は此の三重網によつて供給される。

2 ワイジケー又はヒンヂケー

環礁の切目耳も満部を挟んで外側部を敷設し世き潜水(2~3人)して魚群を網側に追いつめ、魚を網に刺さしめ、或は網側に魚群が集まつた所を沈子の方を持ち上げて沈子方から魚とともに網を巻いて舟に乗せ漁獲するものである。網の構造は普通袋網と一尋位の袖網からなり魚群が大きい時はワイジケー網を袖網として用いる

◎ 一本針漁業

伊平屋島周辺の7~8尋から70尋位の処で春から秋にかけて操業し冬期は殆んど出漁しない。

漁具は綿子三子然45本合の元繩とL字形の針金、重垂ナイロン釣元、1寸8分位の釣鉤からなる。餌料は章魚の足、獲獲物はタマメ、クナナギ、ヤキ、アカレー、等である。

◎ 漁 籠 釣

島尻部落民によって行われているが以前は10組位あつたがストラップ採取に転業して現在は2~3名に減つた。島の周辺の7~8畝から50畝位の漁の近くの砂浜の辺で採獲冬季は殆んど出漁しない。

幹繩は120~150本5子然、綿子270~300母。枝繩は30本総繩糸2.5尺、幹繩5母毎に1本宛取付ける。浮繩は幹繩と同様な繩糸を用い深さによつて伸縮する。浮繩は高さ1尺径1.5尺位の桶で蓋をせず、此の桶を十字型に結び上方の結び目にカメの破片を2~3ヶ結付垂下し或は木筒等を結び付けて、その音により暗夜その位置を知るに便とする。浮繩は1ヶ取り付け他の一端は舟にて浮繩を持つ。餌料は章魚の足の皮を剥だものやムル一等を用いる。魚獲物は1本釣の場合と同様で小鯨等が釣れる場合がある。並は図の通り。

◎ 採 貝 業

島の周辺の魚礁の外側から高瀬、広瀬、玉貝等を採捕している。野甫島漁夫は最近潜水器を利用して200~300斤位採捕して搬出していたが、種別は不明であつた。

◎ 其 他

具志川島北西側にバアンウニが鱧産し8~9月頃水ウニにして利用されると云う。

IV 調 査

1 主催と日時

真和志市主催により1957年6月14日同市役所会議室に於いて実施した。

2 受 講 者

真和志市内養魚者、婦人会及一般希望者計30名

3 内 容

a 養魚法の概要

- 池の位置選定について、造池上の注意事項
- 産卵孵化法・放養尾数について・投餌法について
- 成長度について

b 金魚養殖法概要

c. アラビア仔魚と鯉仔の鑑別法及アラビア冬田法

(9) 指 導

1. 目 的

屋部村屋部区六班寺元榮福氏の要請により鯉の採卵孵化法及造池法の指導をした。

2. 期 日

1956年8月10日午前中

3. 養魚池の状況

屋部々落の北西端部にあつて北方及西方は水田、東側は道路を距てて水田となり南側は住宅地で樹木が繁つている。住宅地に沿うた巾2間半長さ45間の細長い溜池である。これを巾2間半、長さ15間間積375坪宛の3ヶ池からなつている。仕切堤の下部には土管を配し各池共これをおとして水は通ずるようになつている。東側の池に親鯉45尾、我の2ヶ池に2寸大の稚鯉250尾放養されていた。此の池を利用しての採卵孵化法を指導した。

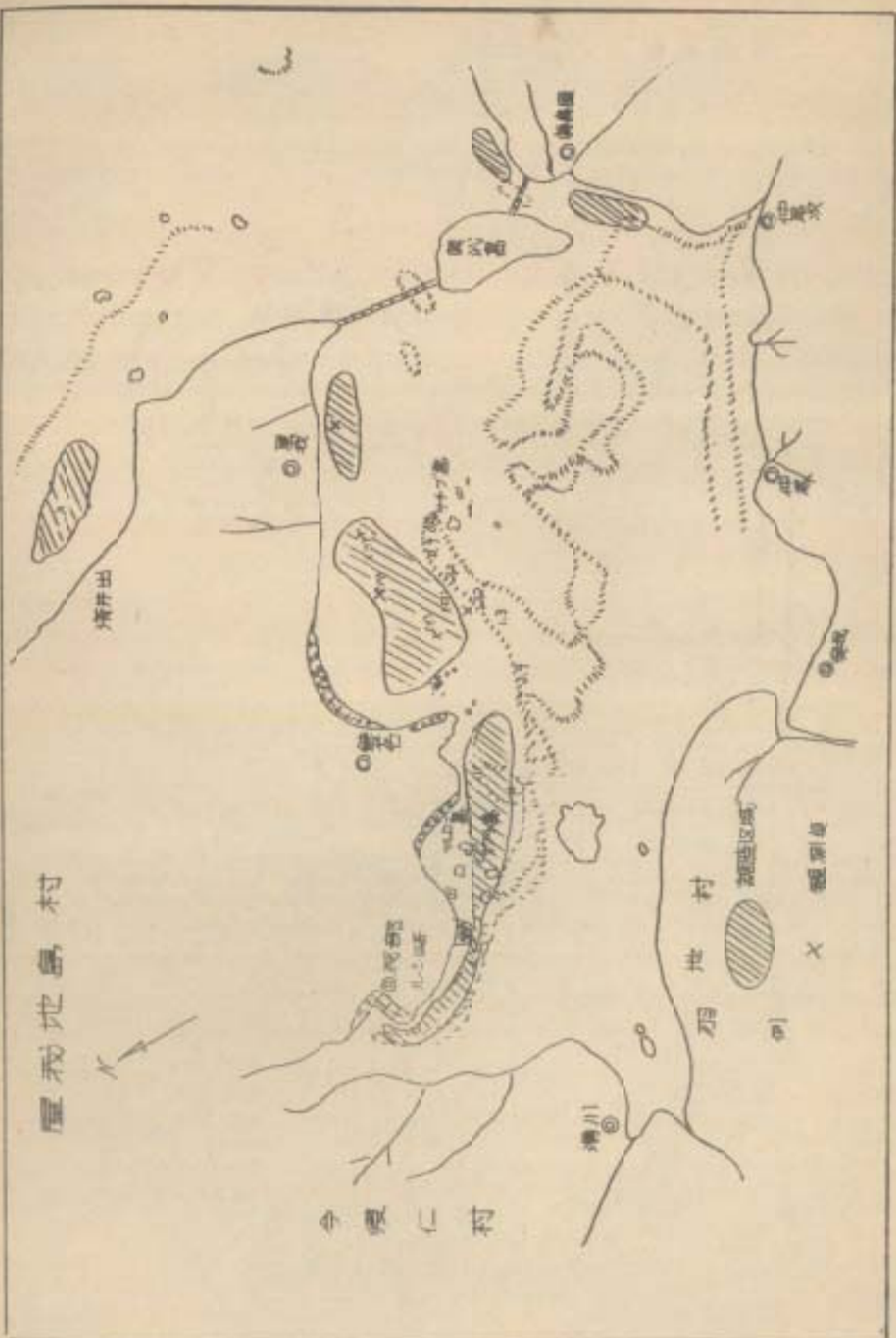
4. 造池候補地

村役所の西南部、西屋部川の下流東岸部に当り、川と平行に正方形に近い水田で面積は約2反歩ある。此の水田は80月の高潮時に潮水浸入して稲作は不能のため養魚池に改造し度いと云う。北西部には道路を距てて水田が川沿に続いているが、その水日用水路から常時用水は引用出来ると云う。北東は住宅地で日当りよく養魚池として好条件の土地である。此の現地で注排水溝、池の配管造池上の注意事項等を指導した。

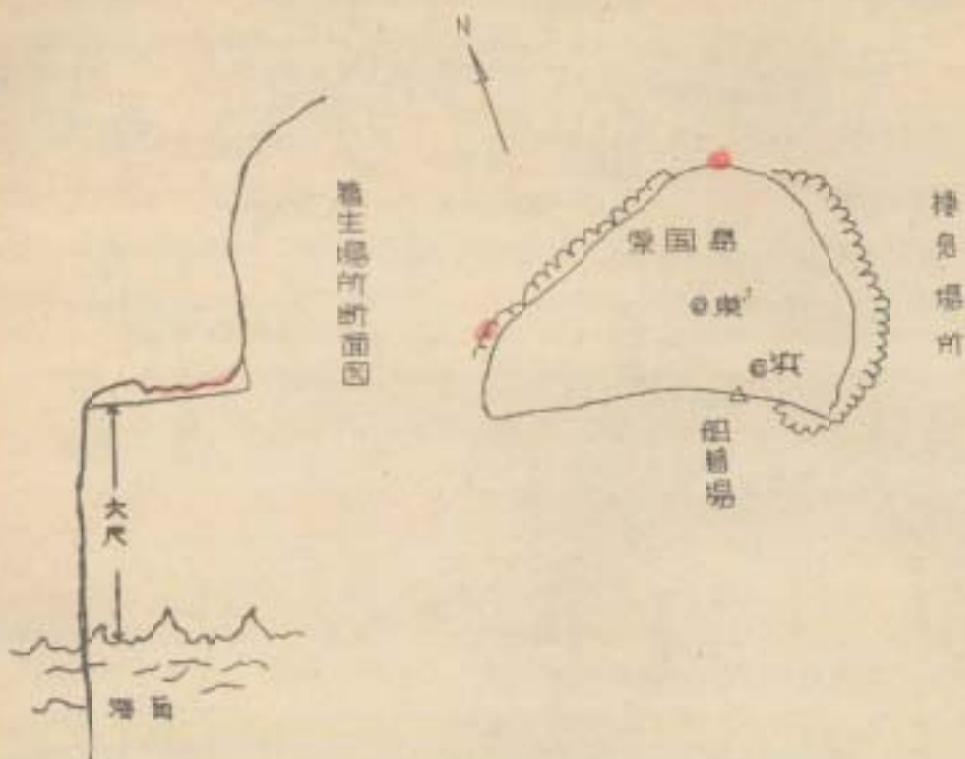
屋敷地島村



今更仁村



飛田島岩のり養生図



伊平屋島の漁具構成図

